



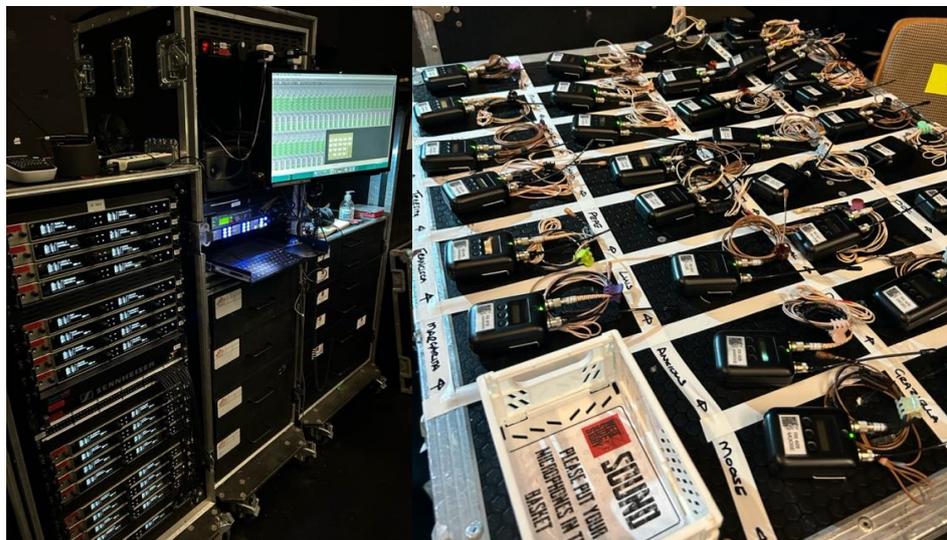
(写真提供 : Johan Persson)

Sennheiser Digital 6000、新『ウエスト・サイド・ストーリー』の制作を強力にサポート

Sennheiser/Neumann ソリューション、作曲家レナード・バーンスタインの不朽のメロディーに命を吹き込み、世界で最も愛されるミュージカルの一つに魅惑のサウンドを提供

ヴェーデマルク、2023年4月 - 1957年に初演された『ウエスト・サイド・ストーリー』は、ジェローム・ロビンスのアイコン的な振付と、伝説の作曲家レナード・バーンスタインの「マリア」「サムウェア」「アメリカ」といった不朽の名曲群により、ミュージカルというジャンルに革命をもたらしました。BB Promotion 主催の新『ウエスト・サイド・ストーリー』は、2022年末にワールドツアーを開幕して以来、世界中のオーディエンスの心をつかんできました。舞台音響デザインとライブサウンドエンジニアを務める Tom Marshall 氏が、BB Promotion および Stage Sound Services (SSS) と協働して完璧なオーディオシステムを構築。Sennheiser Digital 6000 ワイヤレスオーディオソリューションのほか、Neumann のモニタースピーカーおよびマイクロフォンで構成されるシステムが、オーディエンスに忘れがたいミュージカル体験を約束します。

新『ウエスト・サイド・ストーリー』のオーディオシステムの構成は、Sennheiser SK 6212 ミニボディパケットランスミッター×34、Sennheiser MKH 40 マイクロフォン×2、Sennheiser EM 6000 デュアルチャンネルレシーバー×14、Neumann KH 120 モニター×10、Neumann KM 140 カーディオイドマイクロフォン×8、Neumann U 87×2 となっています。さらにツアーを通してシームレスなパフォーマンスを実現するため、Marshall 氏はまったく同じ構成の”B”システムも用意し、2つのシステムが世界各地で交互に活用されています。



ショーのオーディオシステムは、Sennheiser EM 6000 デュアルチャンネルレシーバー×14、Sennheiser SK 6212 ミニポディパケットランスミッター×34をはじめとする Sennheiser および Neumann 製品で構成（写真提供：Aaron Barker）

1995 年から舞台音響の仕事に携わってきた Marshall 氏は、ミュージカル作品のミキシングを専門とするかたわら、ライブコンサートのミキシングも手掛けており、世界的に有名な舞台音響デザイナーとして高い評価を得ています。Sennheiser をはじめとするブランドとも、深い関係を築いてきました。

「Sennheiser はオーディオプロフェッショナルの間で信頼のブランドとして愛されています。私自身、劇場でのキャリアや、ライブバンド、ロック、企業向けプロジェクトなどのさまざまな経験を通じて、Sennheiser 製品を使い続けています。最高の成果が出せるとわかっていますからね」

Marshall 氏と新『ウエスト・サイド・ストーリー』の主催者 BB Promotion とのパートナーシップは、ドイツはケルンでの 6 年前のプロジェクトからスタートしました。その後、BB Promotion のエグゼクティブプロデューサー兼アーティストリックディレクターの Martin Flohr 氏が英国での『ウエスト・サイド・ストーリー』制作に参加し、その際に Marshall 氏が音響を担当したことで、両者の関係性はさらに強化されました。「サウンドクオリティに感銘を受けた BB Promotion から、新作でも同じ音響デザインをというリクエストを受けたんです。プロジェクトの一員に迎えられて興奮しましたね」（Marshall 氏）

Stage Sound Services とは数々の制作現場で 15 年以上にわたり協働してきたという Marshall 氏は、同社の信頼のエキスパートチームに連絡。新作に必要な機材について意見を求めました。

「同社とディレクターの Phil Hurley 氏とは長年のつきあいです。プロジェクトの交渉プロセスに

において、必要なものを提供することができたのは同社だけでした。英国で手掛けた多くのショーでも同社から機材提供を受けていたので、揺るぎない信頼を置いていましたし、最高のサービスを約束してくれるはずだと確信していました」 (Marshall 氏)



Phil Hurley 氏 (Stage Sound Services のディレクター) は Sennheiser SK 6212 ミニボディパケットランスミッターについて、現代の音響制作における高度なデジタル伝送技術のベンチマークだと高く評価 (写真提供: Aaron Barker)

Hurley 氏も新『ウエスト・サイド・ストーリー』の世界ツアーに機材提供できるチャンスに興奮したそうで、Marshall 氏から連絡があった際には、ぜひともプロジェクトに参加しようと話したと言います。Hurley は次のように語っています。「ラウドスピーカーのメーカーは Tom がすでに決めていて、ちょうど当社の在庫にありました。それなら、合わせるのは Sennheiser Digital 6000 と、同社のフラッグシップで、現代の音響制作において高度なデジタル伝送技術のベンチマークと呼べる SK 6212 ミニボディパケットランスミッターだね、という話になりました。Tom もこの提案が気に入り、当社が提供する他のさまざまな機材と合わせて SK 6212 を使うことが決まりました」

「Phil から SK 6212 を使ってみないかと提案され、“もちろん!”と答えたのを覚えています。複数の場所で毎週開催されるショーとなると RF も膨大になるので、真にユーザーフレンドリーで、箱から出してすぐに使え、直感的なインターフェースのシステムが必要でした。製品のクオリティは最も重要なポイントですが、世界的に広く知られているブランドなら、万が一の場合にも現地で簡単にサプライヤーを見つけることができます」 (Marshall 氏)

SK 6212 の大きな強みの一つが、そのサイズです。「市販のランスミッターでは、世界最小級ですね。パフォーマーや衣装部門に見せたところ、ウィッグや衣装に隠すのがすごく簡単だと言って、すぐに気に入ってくれました」と語る Marshall 氏は、SK 6212 のバッテリー寿命の長さについてもコメント。「バックステージチームの頭痛の種がなくなりました。1日の初めにバッテ

リーを交換したら、その日のリハーサルから、夜のショーまでもちます。バッテリーを何個も用意しておく必要がなくなるので、特にツアーの際には、仕事がぐっと楽になりますね」

オーケストラのモニタリングについては、Marshall 氏、チームに参加した Dan Gregory 氏（プロダクションサウンドリードエンジニア）、Tom Meehan 氏（サウンドリーダー）、Aaron Barker 氏（サウンドサブリーダー）、Clara Lim 氏（アシスタントサウンドエンジニア）が、必要に合わせて使うことのできる電源内蔵型のモニターが必要だと結論づけていました。

「ショーには最高峰のモニタースピーカーも組み込みたいと思っていたので、Phil から Neumann KH 120 スタジオモニターを提案されて興味がわきました。Neumann は比類ないサウンドで有名ですし、実際に音を聴いてみて、感動しました。以前は別のブランドを使っていたのですが、KH 120 は期待をはるかに上回りましたね。大いに感銘を受け、自宅にも欲しいと言ったくらいです（笑）」（Marshall 氏）



Neumann KH 120 スタジオモニターの音を実際に聴いた Tom Marshall 氏は感動し、「この最高峰スピーカーをぜひショーで使おうと決めた」と言います（写真提供：Aaron Barker）

Sennheiser のプロオーディオ部門で事業開発マネージャーを務める Kevin Gwyther-Brown と Sennheiser/Neumann チームのその他のメンバーは、ショーへの機材提供に向けて SSS チームを力強くサポートしました。

SSS の人事・テクニカル部長を務める Huw Semmens 氏や彼のチームとタッグを組み、必要な機材集めを進めた Hurley 氏は、次のように説明しています。「世界中のサプライチェーンが課題に直面しているなか、厳しいスケジュールにもかかわらず、Sennheiser は新しい RF システムの提供に向けて期待以上の働きを見せてくれました。Tom のオーディオシステムデザインを形にするには、Sennheiser からのタイムリーな納品が不可欠でした。我々が必要なものをすべて、しかもシームレスに準備できるよう、彼らが率先して協力してくれたことに心から感謝しています。彼らの柔軟なアプローチが、すべてを一変させました」

「Stage Sound Services の素晴らしいチームとのコラボは毎回、最高の体験をくれます。このツアーに Sennheiser と Neumann の最高峰製品をはじめとする包括的なソリューションを提供することができ、嬉しく思います。あの厳しいスケジュールを考えれば、なおさらです。マイクロフォン、ステージモニター、ミュージシャンモニターなどを含むワールドクラスのオーディオシステムを提供し、この途方もないワールドツアーをサポートすることができ、チームとして誇りに思います」 (Gwyther-Brown)



『ウエスト・サイド・ストーリー』は、ジェローム・ロビンスのアイコン的な振付と、伝説の作曲家レナード・バーンスタインの「マリア」「サムウェア」「アメリカ」といった不朽の名曲群により、ミュージカルというジャンルに革命をもたらしました (写真提供：Johan Persson)

新『ウエスト・サイド・ストーリー』は昨年末にミュンヘンで初演を迎え、1,500 人のオーディエンスから喝采を浴びました。その一人である、巨匠レナード・バーンスタインの息子アレクサン

ダー・バーンスタインはショーを「ファンタスティックな作品だ」と評価。堂々たる成功物語の新章を開いた感動的なスペクタクルを堪能したようです。現在ドイツをツアー中のショーは今後、世界各地を訪れる予定です。

ツアー日程の詳細は[こちら](#)でご確認いただけます。

写真提供：Johan Persson

各社提供の高解像度写真は[こちら](#)でダウンロードしていただけます。

ゼンハイザーブランドについて

オーディオと共に生きるゼンハイザー。世の中を変えるオーディオ製品を作りだすことに情熱を捧げ、オーディオの未来と素晴らしいサウンド体験を築く。これこそが75年以上もの歳月、変わらずに掲げてきたゼンハイザーの意義です。Sennheiser electronic SE & Co. KG はマイク、会議システム、ストリーミング技術、モニタリングシステムなどの様々なプロオーディオ事業を展開しながら、ヘッドホン・イヤホン、サウンドバー、スピーチ-エンハンスヒアラブルデバイスなどの一般消費者向け事業を Sonova Holding AG へのブランドライセンス事業で展開しています。

www.sennheiser.com

www.sennheiser-hearing.com

<本リリースに関する報道関係者のお問い合わせ先>

ゼンハイザー・ジャパン PR 事務局（ブレインズ・カンパニー内）

中村・西田・本郷

TEL：03-4580-9156 / MAIL：sennheiser@pjbc.co.jp